



SPIO Newsletter

The Society for Promotion of International Oto-Rhino-Laryngology

平成22年4月30日(金)

10

第10号

財団法人
国際耳鼻咽喉科学振興会

— ご 挨拶 —

理事長 野村 恭也



最近の世の中は急激に変化しておりますが、平成21年度もSPIOはほぼ従前通りの活動を行うことができました。これも偏に賛助員はじめ、多くの方々のご支援によるものとここに感謝を申し上げます。

SPIOの主要な業務の一つに学会への助成があります。最近の国内学会は招待講演に海外の著名な演者を招聘する機会が多く、SPIOでは国際学会に準じ招聘費用の一部を助成いたしております。国内学会、国際学会の枠を超えて学問の発展へ貢献するよう努めております。

平成21年度は若手外国人留学生2名に対して研究助成金各30万円を交付しました。今回は応募者が少なく驚きましたが、最近では留学生、特に中国からの留学生の数が減少しているようです。現在までの状況を申し上げますと14年間に21か国、延べ89名に助成が行われました。

助成の効果は、どのようにすれば評価できるのでしょうか。論文がまとまった場合はSPIOから助成を受けた旨、謝辞に記載するよう贈呈式の折、その他機会ある毎にお願いしており、別刷も何篇かSPIOへ送られてきております。SPIOの助成効果が、何年あるいは何十年か後に実ることもあるでしょう。しかし、殆どの留学生は1,2年で帰国してしまうので、その後の追跡は困難なことが多く留学先の教室に聞いても分からないことが少なくありません。SPIOでは帰国後も近況を知らせてくれるように頼んでおり、報告のあった場合はSPIOのHPあるいはNewsletter等に掲載しております。今後も追跡調査に力をいれてまいります。関係者のご協力を是非ともお願いいたします。

若手日本人医師に対する渡航費の助成(戸田SPIO奨学金)につきましては9名に各20万円を助成しました。その内訳は昨年1年間に海外で学会発表を行ったものが4名、留学が5名です。受領者は帰国後SPIOの賛助員となることを条件としておりますが、少なくとも5年間は賛助員としてSPIOに協力していただけると事業も継続しますので是非ご協力をお願いいたします。

SPIO出版について申し上げますと、既に洲崎 春海教授、原 晃教授の宿題報告書が上梓されておりますが、昨年12月には東京大学耳鼻咽喉科学教室同窓会発行「生誕百年記念 切替一郎教授の言葉の記録」を上梓しました。また本年3月に、大阪医科大学耳鼻咽喉科学教室の業績集が完成いたしました。初めての英文の論文集であります。SPIOの40年史ももうすぐ完成いたします。40年史ではSPIOが40年間にどのような歩みをしてきたのか、賛助員、助成金額、Auris Nasus Larynxの発行部数等の推移、理事、評議員の名簿、理事会、評議員会の開催日、場所等を記載いたしました。

皆様には既にご存知の通り、平成20年12月1日より新公益法人法が施行されております。私共は当財団を見直す機会と考えて一昨年より作業を進めてまいりましたが、いよいよ本年中には内閣府に申請する予定です。

今後も、公益法人に値する活動を続けていく所存ですので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成21年度事業報告

1. 国際学術交流に対する助成
2. 国際学術会議等への助成
3. 留学生(2名)への研究助成
4. 若手日本人(9名)への渡航費助成
5. SPIO Award受賞者の選出
6. 国際的研究の調査および資料の収集
7. ホームページ更新
8. ニュースレターの作成

平成21年度収支決算報告

5月開催の理事会・評議員会終了後に、ホームページを更新致しますのでご覧下さい。

SPIO クラブ

第111回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会の会期中、小林俊光会長のご好意により会場内にSPIOクラブを設け、SPIOの助成活動のご案内及び賛助員の申し込み受付を行います。皆様が自由に懇談いただける場、情報交換の場として、是非お立ち寄りください。

平成22年5月20日(木)・21日(金) 10:00～17:00
仙台国際センター 2階 小会議室5